

0-2-3

精神科に於ける細胞(膜)栄養療法の実践

Practice of Cell membrane nutrition therapy in Psychiatry

○銀谷 翠

医療法人社団・一友会 ナチュラルクリニック代々木

When PDD and autism children took soy-bean extracts K-lyso lecithin acetylcholine like food every day, They became recovered and relaxed.

【目的】

発達障害や自閉症スペクトラムと他院で診断された子供たちは、特に学校や幼稚園での集団活動に支障を来しているが、子供たちに欠乏している栄養素を補給する治療を行った。

【方法】

K・リゾレシチン（生ジェリータイプ 1包=2g）を1日3回、食前に摂取すると同時に、主食を発芽玄米に変え、魚と豆腐、高野豆腐、納豆、味噌汁、糠漬けを毎日摂るように指導した。

【結果】

症例 1) 広汎性発達障害と他施設で診断された3才、男児。生後5ヶ月頃から続く下痢と、言語を4~5割しか理解出来ないことを主訴に来院した。幼児教室に行っても、いつも単独でグルグル走り回っている状態だった。K・リゾレシチン、GABA、亜鉛、乳酸菌の摂取と、食事の改善を指導したところ、2年後に下痢はなくなり、グルグル走り回ったり、電車の中で大声を上げることは無くなった。食べ物の好き嫌いは相変わらず多い。

症例 2) 発達障害の診断を県の療育相談センターで下され、支援級に通っている9才男児。母親は統合失調症にて当院通院歴があった。療育相談センターでは、同年代の子供の80%の発達、と言われた。学校の教室で座ってられず、レストランに入ると勝手に出てしまっていた。当院にてK・リゾレシチン、GABA、ビタミンB群を処方し、肉食をやめて青魚の摂取、そしてコココーラなどの炭酸飲料をやめて自宅で生ジュースを作るよう指導したところ、2週間後には学校の教室で落ち着いて座れるようになり、塾でも落ち着いている。好き嫌いを克服している。

【結論】

子供の発達障害は、脳そのものの障害というよりも、腸内常在菌の不良や食物繊維の不足が根幹にある場合が多い。当院では、食生活の改善を指導するとともに、脳神経細胞を補強、増強するK・リゾレシチンを中心に栄養指導を行うことで、発達障害の改善が出来た。